

地域医療連携だより

えん

発行日：令和6年6月 発行所：富山赤十字病院 富山市牛島本町2丁目1番58 TEL. 433-2492 発行責任者：時光 善温

小児アレルギーセンターのご紹介

小児アレルギーセンター長 足立 雄一

日頃より、患者さんをご紹介いただき、ありがとうございます。小児アレルギーセンターを開設して1年が経過しましたので、そのご報告と共に病診ならびに病病連携についてご案内します。

この1年間で延べ75名の食物アレルギー児に経口食物負荷試験を行いました。即時型アレルギーの陽性率は10%程度で、アナフィラキシー誘発例はありませんでした。最近の研究で乳幼児期早期から積極的に介入した方が予後が良いことが示され、当院では特異的IgE値が高いお子さんでも少ない量で負荷試験を行い、完全除去の期間を少しでも短くするよう努めています。さらに、負荷試験中に食物アレルギー分野管理栄養士（日本栄養士会）が栄養指導も行っていきます。また、合併する

アトピー性皮膚炎が安定しないと食物除去の解除が進まないため、病棟薬剤師と共にスキンケア指導を行い、さらには生物学的製剤などの全身療法も積極的に導入しています。

	即時型アレルギー	消化管アレルギー
合計	68	7
内訳	鶏卵 41、牛乳 19、小麦 5、 その他 3（くるみ、そば、魚）	卵黄 5、 その他 2（大豆、椎茸）
負荷量	微量～少量 38、中等量以上 30	
結果：陽性	7 (10.3%)	1 (14.3%)



喘息児の中には、予防薬の内服で発作には至らないが、感冒時に軽い喘息症状がでたり大笑いや運動で喘鳴が誘発される例があり、このような例にはダニ対策などの環境整備と共に吸入指導を行なった上で吸入ステロイド薬を処方してより高いコントロール状態を目指しています。最近の研究で小児期の呼吸機能低下が成人期のCOPD発症に影響することが示され、当院では学童以上の喘息児には呼吸機能検査(スパイロメトリーと呼気一酸化窒素濃度)を定期的に行っています。貴院でフォロー中の喘息児の中にまだ呼吸機能検査を受けていない児がいましたら、当院で学校の長期休みを利用して呼吸機能を測定し、その結果を解説付きでお返りする病診連携も行っています。また、アレルギー性鼻炎の合併は喘息の増悪要因ですので、舌下免疫療法や短期間の生物学的製剤使用を含めた鼻炎治療も行っています。

このように、当院では小児のアレルギー疾患に対して積極的な管理・治療を行っていますので、以下のような患者さんがおられましたら、ご紹介いただけますと幸いです。

食物アレルギー

- ▶ 完全除去を継続している
- ▶ 複数の食物にアレルギーがあって、なかなか食物制限の解除が進まない
- ▶ ある程度食べられるが、口腔内症状などで日常摂取量に達しない
- ▶ 定期的に特異的IgE値を測定しているが、なかなか低下してこない
- ▶ 長期の食事制限によって発育を含めて栄養面に心配がある

アトピー性皮膚炎

- ▶ 外用薬等で治療をしているが、なかなかよくなる
- ▶ 指導しても、しっかり外用してくれない

気管支喘息

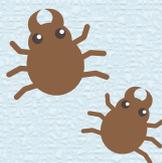
- ▶ 発作は起こさないが、風邪をひくと軽い喘息症状が出る
- ▶ 大笑いや運動時に咳や呼吸苦を認める
- ▶ 治療を継続しているが、今まで呼吸機能検査を受けたことがない

アレルギー性鼻炎、花粉症

- ▶ いつも鼻や目の症状を訴える
- ▶ 特定の季節に症状がひどくなる

その他

- ▶ 成人を含めて、診断や日頃の管理でお困りの症例



富山赤十字訪問看護ステーション のご紹介

安心安全 納得と信頼の看護を

地域のみなさまとの連携を大切に

本人の選択と本人家族の心構えを支える



気管カニューレ交換

専門性の高い看護師

緩和ケア認定看護師、摂食嚥下障害認定看護師、特定行為研修修了者が在籍し、専門性を発揮しています。

現在地域の歯科医療機関との連携体制や口腔連携強化加算の準備を進めております。

地域に貢献する

愛宕・安野屋地域包括支援センターと赤十字ケアプラン事業所が併設しており、事業への参加や介護サービスの調整を行っています。

当ステーションも暮らしの保健室を近くのドラッグストアで毎月実施しています。



暮らしの保健室

かかりつけ医と連携し、病状観察や服薬管理、ターミナルケア、医療的処置、リハビリテーション、介護者の支援を行っています。
24時間対応体制をとり、緊急時にも対応しています。
ご依頼は当ステーションに直接ご連絡ください。

TEL : 076-433-2573

FAX : 076-433-2739

訪問看護ステーション 看護師長 津浦 陽子

第86回地域医療連携の会

令和6年4月26日(金)午後7時より、富山赤十字病院研修棟3階講堂において「第86回地域医療連携の会」が開催されました。開業医の先生25名、当院医師、看護師、コメディカルを含め総勢86名の参加がありました。

副院長兼第一外科部長兼歯科口腔外科部長 芝原一繁医師より「外科の診療体制と今後の展望」、肝臓内科部長兼神経内科部長兼患者支援センター長 時光善温医師より「術前化学療法をおこなった胆管癌の1例」の演題で発表があり、質疑応答や意見交換がありました。

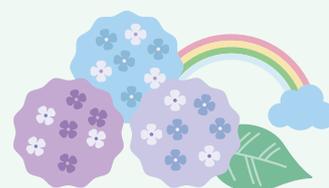
また、地域連携の先生方へ今年度の新任医師を紹介させていただきました。



平岩院長挨拶



質疑応答



新任医師紹介



外科の診療体制と今後の展望



副院長兼第1外科部長兼歯科口腔外科部長 芝原 一繁

令和6年4月から新たなスタッフを迎え、外科の新体制がスタートしました。外科学会、消化器外科学会の認定施設であることはもちろん、臓器別に上部消化管、肝胆膵癌を芝原、北野、青木が、大腸疾患を竹原、倉田が、乳腺・甲状腺疾患を渡邊、寺崎がそれぞれ担当し、各学会の認定施設の指定を受け、専門的に対応しています。また胆石、ヘルニア、虫垂炎、腹膜炎等の救急疾患は迅速に各グループで対応しています。令和5年度の主な手術件数は胃癌32例、大腸癌80例、胆道・膵癌17例、乳癌40例、さらに胆嚢摘出95例、ヘルニア79例、虫垂炎48例、腸閉塞35例などでした。食道癌、胃癌、大腸癌の手術は4K高精細カメラシステムを用いて腹腔鏡下に精緻なリンパ節廓清を行い、術後成績も良好です。急性胆嚢炎に対しては発症後できるだけ早期に腹腔鏡で手術を行っています。各種ヘルニアに対しても積極的に腹腔鏡下に手術を行って良好な成績をおさめています。この4月からはヘルニア外来を開設してできるだけ多くの患者さんに対応しています。

通常の診療とは別に大規模災害発生時には救護班第一班に配置された外科医がチームのリーダーとして活動しています。能登半島地震でも1月2日から渡邊が救護班のリーダーとして患者搬送で活躍してくれました。

今後は昨今の患者さん、連携医の先生方、大学医局からの要望の多いロボット支援下手術の導入にむけて現在、2024年以内の執刀開始を目標に鋭意準備をすすめています。まずは直腸切除から開始し、胃切除、結腸切除に適應していく予定です。引き続き“求められ、応えられる外科”を目指していきますのでどうぞよろしくお願い致します。

術前化学療法をおこなった胆管癌の1例



肝臓内科部長兼神経内科部長兼患者支援センター長 時光 善温

60歳代の男性で、両下肢の疼痛を訴え近医整形外科を受診されました。その後、疼痛が高度になったため当院心臓血管外科をご紹介いただきました。両下肢の下肢静脈瘤、血栓性静脈炎と診断されましたが、受診時に黄疸を認めたため肝臓内科に診療依頼がありました。総ビリルビン 13.8mg/dLで、CTでは近位胆管の壁肥厚と狭窄、肝内胆管の拡張、肝門部リンパ節の腫大を認めました。すぐに減黄と細胞診のためERCPをおこない、狭窄部からの擦過細胞診と胆管ステント留置を実施しました。これらの結果、胆管癌と診断しました。本症例では遠隔転移がなく手術を検討しました。しかし入院時に初めて指摘された糖尿病がHbA1c 10.7%と非常に悪く、まずは血糖コントロールをおこなうこととなりました。

胆道がんの化学療法はGEMをkey drugとして単剤またはCDDP、S1を併用するレジメンですが、これに免疫チェックポイント阻害薬を併用するGCD療法(GEM+CDDP+Durvalumab)が適応となり、これを術前に実施しました。奏効率が26.7%でOS中央値が12.8か月、また免疫療法の特徴でもある長期生存割合を高く維持できることが期待されます。4コース実施し、FDG-PETで原発巣の集積が不明瞭でリンパ節転移巣が縮小していることからPRと判定しました。この時点でHbA1c 6.4%まで改善しており、安全に手術を行うことができました。

整形外科クリニック、心臓血管外科、消化器内科・肝臓内科、糖尿病・内分泌・栄養内科そして外科の連携が良好な結果につながったと考えています。

令和6年度「看護の日」イベント



5月12日ナイチンゲール生誕にちなみ、私達の看護を伝えるために、「寄り添う、支える、助け愛」をテーマに看護の日のイベントを開催しました。

5/13～5/17の期間、看護の日の横断幕、部署紹介(18部署)と「看護職への道」「能登半島地震における救護活動」のポスターを掲示しました。5/14(火)10～12時は、赤十字活動と「私たちが大切にしている看護の一場面」のスライドを上映し、訪れる人からの質問や感想などを伺い、看護の日や赤十字災害看護などの説明を行いました。また、介護用品・福祉用具展示コーナーを設置して、ケアプラン・包括支援センターの職員が交代で介護相談・訪問看護の相談や生活・運動の指導などを行いました。



部署紹介のポスターを見ていた患者さんから「いろんな職種の人がかかわってくれているんですね。」など、病気に対する思いや職員への感謝の言葉が聞かれました。

桐の会会長 上田 永子

7月、8月の外来診療に関する医師不在日案内

7月

科名	医師名	不在日
歯科口腔外科	石戸 克尚	4日(木)
脳神経外科	桑山 直也	5日(金)
小児科	足立 雄一	5日(金)、12日(金)
	津幡 眞一	11日(木)、12日(金)、18日(木)
	平井 宏子	22日(月)PM
内科	川根 隆志	10日(水)、12日(金)
	黒川 敏郎	29日(月)、30日(火)
	東 雅也	1日(月)
	宮 有佑	26日(金)、31日(水)

8月

科名	医師名	不在日
眼科	辻屋 壮介	5日(月)、6日(火)、7日(水)
小児科	足立 雄一	19日(月)
	津幡 眞一	21日(水)
心血管呼吸器外科	宮津 克幸	15日(木)、29日(木)
内科	黒川 敏郎	1日(木)、26日(月)
	川原 順子	9日(金)
	賀来 文治	15日(木)、20日(火)、21日(水)、22日(木)
	若林 祐介	23日(金)、26日(月)、27日(火)
	松永 貴弘	15日(木)、16日(金)、19日(月)、20日(火)
	宮 有佑	2日(金)
泌尿器科	長坂 康弘	13日(火)、14日(水)、26日(月)、27日(火)、28日(水)

※不在日には、代診を立てております。

患者支援センターからのお知らせ 「第87回地域医療連携の会」

日時：令和6年7月1日(月) 午後7時から

場所：ホテルグランテラス富山

演題：◇「富山大学附属病院痛みセンターの活動」について

国立大学法人富山大学 学術研究部医学系(医学)麻酔科学講座

教授 高澤 知規 先生

※みなさまの参加をお待ちしております。



編集後記

木々の緑も深みを増し、夏めいてまいりました。日頃より富山赤十字病院との医療連携にご協力いただきありがとうございます。

4月より患者支援センターに配属となりました退院調整看護師長の加藤です。長年訪問看護ステーションで勤務し、地域の先生方には大変お世話になりました。

地域で活動してきた中で強く感じていることは、家族形態の変化です。訪問看護を始めたころには当たり前だった3世代同居家庭に訪問することは珍しくなり、高齢者世帯がほとんどです。介護の担い手となってきた家族の不在、または遠距離や就労などで、協力できる範囲も限られている現状です。そんな中でも、住み慣れた地域で暮らしたい、と望む方々を支えることができたのは、地域の先生方をはじめとした在宅ケアチームの力と思っています。

今後は地域での経験を活かし、医療機関と地域の懸け橋となれるよう努力してまいります。不慣れなためご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願い致します。

(患者支援センター 退院調整看護師長 加藤 真理子)

紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

富山赤十字病院
患者支援センター

TEL : 076-433-2492 FAX : 076-433-2493

e-mail : byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp

夜間・休日のお問い合わせは…TEL : 076-433-2222(代表)

Fax : 076-433-2410(夜間・休日のみ)